

すみなか

—— すみだ共生社会推進センター ——

特集 あなたに寄り添う「すみなか」活用法

2 巻頭インタビュー

4 **特集**
あなたに寄り添う
「すみなか」活用法

8 になりたい自分、になりたい未来
すみだの
「お仕事探訪」

9 今日の一文字

10 すみなか
インフォメーション

12 こんにちは
すみださん



巻頭インタビュー
落語家
五街道 雲助 さん



こんにちは すみださん
染色家
古俣 和子 さん

2024(令和6)年4月に
愛称が「すずかけ」から
「すみなか」に変わりました

落語家

五街道 雲助さん

Kumosuke Gokaido

Profile

1968(昭和43)年に十代目金原亭馬生に入門。1972(昭和47)年に二ツ目に昇進し、六代目五街道雲助となる。長年にわたって落語界を牽引し、その功績から2023(令和5)年に落語家として4人目となる重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。墨田区名誉区民。



墨田区に生まれ、噺家
となったこれまでのこ
とを教えてください。

本所、以前の厩橋^{うまやばし}で生まれ、一度も越すことなくそこで育ちました。家の前は春日通りで、昔は舗装されておらず馬が大八車を引いていました。76年間見てきたわけですから、ずいぶん様変わりしましたね。私が小さい頃なんかは家にも人

にも垣根がなくて、近所の人たちは私を呼び捨てにしていたかわいかったです。

他の土地と比べれば、墨田区には今も下町の人情み
たいなものが残っています。私が重要無形文化財に認定されたという報道が出たときも、道を歩けば、どこかのおじさんがそばに寄ってきては「おめでとうおめでとう」と声がかかる。町内ではお祝いもしてもら





いました。そのお返しをし
たくて、無料で寄席を開き
町内の皆さんに聞いていた
だいたんですがね、とても
喜んでくれました。

もともとお袋が演芸好
きで、歌舞伎や寄席に小
学校の頃からよく連れて
行ってもらっていたので、
演芸の地下はありました。
大学で落語研究会に入っ
て火がつき、寄席通いばっ
かりに…。弟子入りして

落語の登場人物は、ごく普通の人間 人情噺に笑ったり、安心したり

から今まで一度もやめたい
と思ったことはありません。
向いていたんだと思いま
す。不精な方ですが、重
要無形文化財の保持者に
認定され、その技術を弟
子や後世に伝えていく立
場になった今は、だんだん
と責任感の方が強くなっ
てきました。

墨田区の名誉区民に認
定いただいたのも、光栄な
ことです。76年ずっと墨田
区ですので、地元に対する
愛着はかなりあります。親
父も町会長などをしてい
て墨田区に対する思いは
大きかったですから、親父
が生きてたら相当喜んで
くれたらうと思います。

落語の持つ魅力を教え
てください。

私は落とし噺や連続
ものの人情噺など、幅広
くやっています。話にも
よりますが、伝統的な部
分はしっかりと伝えなが
らも、寄席でやる落とし
噺などには独創的な要
素を加え、面白さを足し
ています。それから力を
入れているのは「圓朝えんちょうも
の」。明治時代の速記か
ら掘り起こして、自分で
組み立ててきました。発
掘のようで骨の折れる作
業ですが、これが評価さ
れたことはたいへんうれ
しいです。

落語の世界は噺家も客
も男性ばかりでしたが最
近は変わってきていて、女
性の噺家も活躍されてい
ます。それぞれの個性がさ
らに生かされ、新しい風を
吹き込んでくれています。

落語によく登場する「キ
セル」も、今は知らない人
が増えています。言葉の意
味がわからないなんて、落
語家にとって難しい時代に
なったなあと思っていたと
きに、ある大学の先生に
「万葉集」をすすめられま
した。読んでみると、そこ
に親が子を思う気持ち、子
が親を慕う気持ち、人に惚
れる気持ち、振られたとき
の気持ち…そういう人間の

気持ちがたくさん詰まっ
ていました。そのような情は
ずっと続いているわけです
から、落語でもってそうした
情を演じ続けられ、噺家や
時代がいくら変わっても、
人々には伝わり、伝承され
ていくのだと感じました。

落語の登場人物に立派
な人はいないんです。「世
情の粗で飯を食い」なんて
いわれますが、酒飲みとか
博打好き、夫婦げんか、本
当に無駄でくだらない話
を高座でやって、落語家は
飯を食っているといわれま
す。私の落語を聞いて、
笑っちゃって自殺を思いと
どまったよなんて話して
くれた人もいました。行き
詰まったり、自分が嫌に
なったりしたときは、落語
を聞いてみてください。私
の馬鹿馬鹿しくてしょう
がない話を聞いて、きつと
安心すると思います。

あなたに寄り添う「すみなか」活用法

2024(令和6)年4月に名称変更した、

「すみだ共生社会推進センター」、愛称「すみなか」に慣れ親しんでいただいているでしょうか？

今号では令和6年度の「すみだ共生社会推進センター」を振り返り、

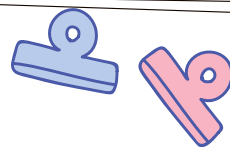
新設された講座やこれからの取り組み、継続されている講座や事業などを紹介します。

楽しめる催しや役立つ講座などをたくさん企画しています。

今までよりもっと区民の皆さんに当施設を知っていただき、活用していただきたいと思います。

名称変更にあたって

すみだ共生社会推進センター館長 小川 宏昭



令和6年4月1日から名称を「すみだ共生社会推進センター」に変更しました。令和5年4月1日に施行された「墨田区女性と男性及び多様な性の共同参画基本条例」を受け、多様な性の尊重を包摂した新たな男女共同参画拠点施設として進んでいくために必要不可欠な名称変更でした。

名称変更に至る過程の中で一番強く感じたことは、運営委員や協力委員、利用者の皆様の「女性センター」という名称への並々ならぬ「想い」でした。30年以上の歴史があり、活動してきた「女性センター」、その「想い」は今後に引き継いでいかなければと強く感じたことを記憶しています。それ以降、講座等でご挨拶をする際、「女性を取り巻く課題が全て解決されている訳ではありませんが、新たな課題とともに取り組んでいきます」と必ず付け加えることで、自分の中の「想い」を再確認しながら、日々の仕事にも取り組んでいます。

名称を変更するだけなのですが、その事務手続きはとても大変でした。条例や規則の改正、公印の変更といった、公共施設としての変更手続きはもちろん、関連事業者への申請が多岐に渡りました。駅構内の案内板やバスの車内放送、公共サインに信号機の表示……。一生懸命に調べて変更手続きをしましたが、もしかしたら漏れていないかなと心配になる日々でした。押上駅の案内板に「すみだ共生

社会推進センター」の文字を見たとき、思わず写真を撮るほど嬉しかったことを記憶しています。

また、施設内の表示も変更する必要がありました。申請書等の書式変更、看板や案内板の変更がありました。一番大変だったのは、館内の掲示物のほぼ全てに「女性センター」と書かれていたので、それにシールを貼る作業でした。「女性センターの施設の中なのだから、ここまで女性センターと書かなくても良いのに・・・」と思いながら、シールを貼っていきました。1階から3階まで隈なく見たつもりですが、もしかしたらまだ残っているかもしれません。見かけた際はぜひお申し出ください。至急修正します。

最後に、これまで多くの方にご理解とご協力をいただき、無事に名称を変更することができました。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも、性別に関係なく誰もが共に生きる社会の実現に向け、職員と一緒に施設の運営を行っていききたいと思います。「すみだ共生社会推進センター」、愛称「すみなか」を引き続きご利用ください。どうぞよろしくお願いいたします。



「すみなか」の委員会を紹介します

「すみなか」には区民の要望を直接的に反映させるために、
公募された区民からなる、運営委員会と4つの協力委員会があります。
種々の催しや事業の実施にあたり、その積極的な活動を支援しています。
各委員会は公募されていますので、「すみなか」にお問い合わせください。是非、一緒に活動しましょう。

運営委員会

「すみなか」の事業と運営に区民の考えが反映されるよう意見を出し、
あり方を考えます。公募のなかから「すみなか」の愛称の選定も行いました。

回数

年3回程度

4つの協力委員会

まつり企画委員会

すみだ共生社会推進センターを広くPRし、協力委員、登録団体の活動の発展を図り、互いの交流の場とすることを目的とする「すみなかまつり」を企画、実施します。

2024年9月28日(土) _____
「すみなかまつり」が開催されました。

回数

事業実施時期を中心に、
年7～8回程度

講座委員会

男女共同参画推進のための講座、講習会を年1回程度企画、実施します。

2024年2月 _____
「子育てがラクになる魔法のコーチング」

2024年11月 _____
「映像で見る子育て(大正から令和まで)」

回数

事業実施時期を中心に、
年7～8回程度

編集委員会

多様な社会への意識を高め、啓発を行うための情報誌「すみなか」(本誌)の編集をし、年2回(8月・1月)発行します。

2024年1月 _____
No.95 特集「「すみだ女性センター」は「すみだ共生社会推進センター」に名称を変更します。」

2024年8月 _____
No.96 特集「今、墨田区の学校給食は・・・」

回数

4月から7月、9月から12月の
月3回程度(火曜日午前の予定)

情報資料委員会

男女共同参画推進に関する情報の収集、整理及び提供をします。購入図書の推薦、選定をします。年1回程度、区民参加型の交流サロンを企画、開催します。ブックレビューを作成して情報資料コーナー等に置いています。

2023年10月 _____
「川柳で考える100年時代 -百歳百歳みんな百歳!-」

2024年11月 _____
「あなたの推しは誰ですか? -源氏物語の登場人物について語る会-」

回数

年6回程度

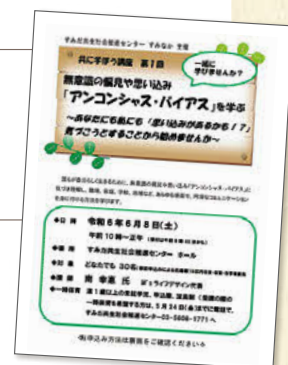
「すみなか」の事業を紹介します

名称が変更された講座

共に学ぼう講座

「すずかけ大学」より名称変更

令和6年度	第1回 令和6年6月8日 実施済	無意識の偏見や思い込み「アンコンシャス・バイアス」を学ぶ ～あなたにも私にも思い込みがあるかも!? 気づこうとすることから始めませんか～ 講師 南 幸恵氏 M'sライフデザイン代表
	第2回 令和6年6月15日 実施済	SOGIEに関する基礎知識 ～性の多様性と共生社会のあり方について～ 講師 時枝 穂氏 LGBT法連合会代表理事
	第3回 令和6年7月6日 実施済	アウトドアの知識を活かした防災術 ～防災に潜むアンコンシャス・バイアスや 人権問題を考えながら防災テクニックを学ぶ～ 講師 あんどうりす氏 アウトドア防災ガイド
	第4回 予定	「揉め上手」になるための名もなき家事講座 ～2人で家事力と対話力をあげよう～ 講師 くぼ あやの氏 こねくというず副代表・コミュニケーションスキルアップ講師 ※ 都合により、予定を変更する場合がございます。



新しく設けられた事業

予防啓発出前授業を拡充

DVの低年齢化が問題となることから、区立中学校への出前授業を拡充

すみだにじいろ相談

多様な性の相談窓口

相談日時 毎月第4木曜日(祝日を除く) 午後3時～午後7時

専用電話 ☎ 03-5637-8680(予約不要)



共生社会推進センター施設の区外の方の利用を令和6年10月から認可しました

今後、予定している取り組み

【男性を対象とした専門相談ダイヤルの実施を検討中】

【共生社会推進センターの愛称である「すみなか」のイラストロゴマークの一般募集】

最優秀作品は共生社会推進センターに掲示する他、パンフレットや講座のチラシなどに利用する予定

【各種事業の拡充】 共生社会実現にむけ様々なテーマを検討し実施していく

現時点で検討している講座

「絵本に関する講座」「ニュースポーツに関する講座」

引き続き継続している事業

【 女性のためのカウンセリング & DV相談 】

対象	面接方法	予約の電話	予約受付時間
区内在住・在勤・ 在学の女性限定	面接あるいは電話相談で 予約制	 03-5608-1771	月曜日～金曜日 (年末年始を除く) 午前8時30分～午後9時 土・日・祝日 (年末年始を除く) 午前9時～午後5時

【 DV予防啓発講座 】「ココロも守る護身術 WEN DO」

【 子育て中の母親対象講座(ママ講座) 】「子育てママの「ママもにっこりリラックスタイム」」 全3回

【 子育てパパ対象講座 】「すみだパパスクール」 全3回

【 キッズコンサート(共催事業) 】「夏休み すみなかキッズプログラム ～子どもから大人まで楽しめるクラシックコンサート～」

【 女性のための再就職サポートプログラム(共催事業) 】 東京しごと財団「女性再就職セミナー」

※ 各講座の申し込み方法は区報やすみだ共生社会推進センター内に設置されている各講座のチラシ等でご確認ください。
※ 講座により未就学児の一時保育もあります。

2024(令和6)年9月28日(土)
すみだ共生社会推進センターの事業の一つ
すみなかまつりが開催されました

舞台発表

- シニアフラ「モキハナ」 [フラダンス]
- 新婦人の会墨田支部 [コカリナ演奏]
- 朗読サークルQ [朗読]
- 花藤会 [日本舞踊、新舞踊]
- 朗読奉仕くさぶえ [朗読]
- 琴望会 [大正琴演奏]

展示発表

- あしたの会(アジア・アフリカの子ども支援)
[活動報告・支援のための物資斡旋]
- 家庭倫理の会墨田区 [短歌、習字、写真]
- コスモスクッキングサロン [作った料理の紹介]
- 新日本婦人の会墨田支部 [絵手紙]
- 自彊術(じきょうじゅつ)同好会 [自彊術の解説]
- 墨田区更生保護女性会 [活動報告]
- すみだ女性センターさぼーたーず
[少女漫画におけるジェンダー観の変遷]
- すみだ日本語ボランティア21 [活動報告]
- すみだ環境委員会(パルシステム東京) [活動報告]

講演会

「勝海舟に学ぶ平和への道」
～やしゃごが語る勝海舟～
講師 こうやま 高山 こ みな子 氏

刃をこよりで結び、刃を使わないことを示している海舟の銅像の話から始まり、身内ならではの海舟の素顔のエピソードを交えた興味深いお話に引き込まれた1時間でした。たくさんの方が来場されお話を楽しみました。





墨田長屋/ロカンタ
オーナー

いわもと ゆり
岩本 友理 さん
Yuri Iwamoto

Profile

15年ほど前に墨田区へ移り
住む。古民家をリノベシ
ョンしたゲストハウス「墨田長
屋」と食堂「ロカンタ」の
オーナーとして運営を行う。

縁でできたこの場所で、縁をつないでいきたい

Q. 起業やお仕事のことを教えてください。

墨田長屋は、平成25(2017)年に八広でオープンしました。起業のきっかけになったのは、シェアキッチンの店長をしたこと。そこで出会った縁で古民家を改装して墨田長屋を始めることになったのです。今は八広から、同じく下町情緒あふれる東向島に移転しました。かゆいところに手が届くというのでしょうか。小さな長屋だからこそ、細かいところまで丁寧に気を配り、近すぎず遠すぎないお客さんとのコミュニケーションを大切にしています。

失敗をおそれず、自分のやりたいことをしよう、そんな気持ちで始めた墨田長屋やロカンタ。コロナ禍で宿の運営ができなかったときもありましたし、まだまだ模索中ですが、たくさんの人に支えられてここまでできています。もともと、自分から積極的に行くタイプではないのですが、興味のあることに関してはどんどん探究していく性格でしたので、そのための努力ならそこまで苦しくはなかったですね。とはいえ、やはり大切なのは



「ロカンタ」という名前はトルコ語で「食堂」という意味です。気軽に立ち寄って楽しんでほしいという思いが込められているんだそう。

人とのつながり。起業のきっかけも縁ですし、区の補助制度などの情報を教えてくれたり、人をつないでくれたり、そうした助けが本当にありがたいです。



Q. 墨田区の魅力を教えてください。

人情ですね。この地に住んでいる方が多く、人の生活や商売がすぐ近くにあるからこそ、地元への思いが強い。でも、閉鎖的ではなく新しい人を受け入れる空気があります。ビジネスライクに流れ作業で人と接するのではなく、来てくれた人みんなにおせっかい。何かを始めたいなって思った人がいたら、助けてくれる人につなげてくれたり。それも、いろいろな人が集まり、それぞれの人が近いからこそできることですね。

私自身、この墨田長屋とロカンタを、地域のハブのような場所にしていきたいと考えています。どんどん人や場所をつなげて、来てくれた方には何かしら思い出を作って帰ってほしいです。

お仕事コンシェルジュ

墨田区では、創業を考えている方や創業して間もない方に向けて、相談窓口の設置やセミナーの開催、創業者向けの融資など、創業支援機関、大学と連携してさまざまな創業支援を行っています。



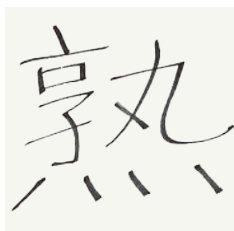
今日の一文字



老若男女、誰もが自分らしく、ハッピーでありたいですね。

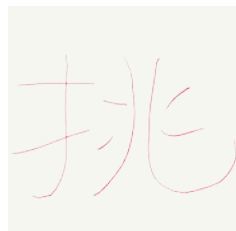
男女共同参画社会を目指し、みんながハッピーであるために、

あなたが日々の暮らしのなかで感じた思いを「今日の一文字」に例えて教えてください。



みっちゃん さん

成熟の「じゅく」ですが、「つくづく」とも読みます。私は好きな一文字です。



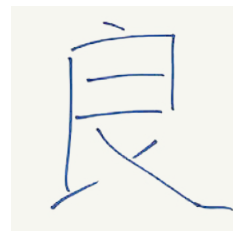
若頭 さん

来週、資格取得のための試験があります。合格したら、更に上位の資格取得試験にチャレンジします。可能性を信じて挑み続けていきたいです！



栗拾い大好き さん

家族・友人・仲間など身近でかけがえのない人との絆を大切にしたい。協力し合ってお互いがHappyなら言うことなし！



ゴマ さん

明るく楽しく朗らかに。そんな毎日が続けばいいなあ。明日も良い一日でありますように。



墨田長屋・ロカンタに行ってきました！

曳舟駅から下町情緒あふれるまちなみを歩くと見えてくる長屋。

その一角に笑顔のあつまるすてきな場所がありました。



個人が集まれば、
新たな力が生まれる！

ここからの帰り道、自
転車に乗って風を感じ
る時間が好きです。

ここで働いていると
知らない料理と味に
出会えて楽しい！

何事にも丁寧に誠
実に接することが
1番大切！



岩本 友理 さん



まーや さん



ちえみ さん



マサカズ さん

「今日の一文字」を募集しています

【応募写真のテーマ】

手書きで紙に書いた、「今日の一文字」の写真
(1年以内に撮影したもの)
※墨田区在住、在勤、在学の方。
※野線の無い、無地の紙にお書きください。
※スマホ等で撮影した写真も可。

【応募方法】

作品の応募は電子投稿(Eメール)のみとします。以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。
1) 応募者(撮影者)の名前(フルネーム、本名)
2) ペンネーム(掲載する際に使用)
※記載の無い場合は本名を掲載します。
3) 一文字にのせた思いやエピソード、コメント等(50文字以内)
4) 連絡先(住所、電話番号)

【応募について】

●メールの件名を、必ず「すみなか漢字投稿」としてください。
●写真データは2メガバイト以内のJPEG形式をお願いいたします。
●お一人様何枚でも応募可能です。
●応募1回につき添付する画像は1枚とします。
●郵送による投稿の受付は行っておりません。
●随時募集しています！

【応募先メールアドレス】

KYOUSEICENT@city.sumida.lg.jp

【注意事項】

個人情報の取り扱いなど、詳細は右記二次元コードより
区ホームページ「今日の一文字」募集ページをご覧ください。

その他詳細は
以下のページを
ご覧ください



すみだ共生社会推進センター 運営委員・協力委員を募集します。

すみだ共生社会推進センターでは、各委員の任期満了に伴い、新しい委員を募集します。
すみだ共生社会推進センターや男女共同参画について関心をお持ちの方、ぜひご応募ください。

対象

墨田区在住、在勤、在学の方

任期

2025(令和7)年4月1日から2年間です。
委員会はいずれも平日の昼間の時間帯に開催されます。

運営委員会

すみだ共生社会推進センターの事業と運営に区民の考えが反映されるよう意見を出し、すみだ共生社会推進センターのあり方を考える、運営全般に関わる委員会です。

募集人数

4名

回数等

年3回程度
(平日午前または
午後の予定)

協力委員会

すみだ共生社会推進センターにおける男女共同参画を推進するための事業実施にあたり、区民の要望を直接的に反映させるとともに、各々の事業を積極的に支援する委員会です。

募集人数

30名程度

まつり企画委員会

男女共同参画推進のため、実行委員会形式で年1回実施する「すみなかつり(講演、登録団体の発表など)」、周年行事等の企画、実施を担当します。

回数等

事業実施時期を中心に
年7~8回
程度

(会議は平日の午前、
行事は9月の土曜日の
予定)

講座委員会

男女共同参画推進のための講座、講習会の企画、実施を担当します(年間1講座程度の企画・実施です。)

回数等

事業実施時期を中心に
年7~8回
程度

編集委員会

男女共同参画情報誌「すみなか(本誌)」を1年に2回作成、発行します。

回数等

4月から7月、
9月から12月の
月3回程度
(火曜日午前の
予定)

情報資料委員会

男女共同参画推進に関する情報の収集、図書の選定などを行います。

回数等

年6回程度

応募方法等はすみだ共生社会推進センター ☎ 03-5608-1771 へお問い合わせください。

募集期間：2024(令和6)年12月1日～2025(令和7)年1月31日(必着)

◆ 開館時間 ◆

[月曜日～土曜日]
午前9時～午後9時
[日曜日・休日]
午前9時～午後5時

◆ アクセス ◆

〒131-0045
東京都墨田区押上二丁目12番7-111号
TEL:03-5608-1771
FAX:03-5608-1770

電車の場合



京成線・東武線・都営浅草線・
東京メトロ半蔵門線
「押上駅」下車A3出口徒歩5分
東武線
「とうきょうスカイツリー駅」下車
徒歩7分

バスの場合



都バス(錦40)
南千住駅東口ー錦糸町駅前
「向島三丁目」バス停前徒歩1分
都バス(業10)
「とうきょうスカイツリー駅」徒歩8分



関係相談窓口(受付時間等が変更になっている場合があるので、お問い合わせください)

相談内容	相談窓口	電話番号	受付時間
女性対象	東京ウィメンズプラザ	03-5467-2455	午前9時～午後9時まで (年末年始を除く)※面接相談は予約制
	東京都女性相談支援センター	03-5261-3110	月曜日～金曜日 午前9時～午後9時まで ※夜間・休日は03-5261-3911へ
	女性の権利ホットライン	0570-070-810	午前8時30分～午後5時15分 (土・日・祝日を除く)
DV	内閣府 DV相談+ (プラス)	0120-279-889	24時間受付
	DV相談ナビ	#8008	最寄りの配偶者暴力相談支援センターにつながります。相談日時は窓口により異なります。
生活困窮	墨田区生活福祉課相談係	03-5608-6154	午前8時30分～午後5時 (土・日・祝日を除く)

編集委員からひとこと

前96号から表紙のデザインも悠々と流れる隅田川に桜の花びらが舞い落ちる様を描いたイラストに変わりました。

今号はリニューアルした「すみなか」を更に広く区民の皆さんに周知することを目的に名称変更に伴う特集を企画しました。

新しい名称が生まれるまでのエピソードや新しい講座の開設などに多くの時間と労力を費やし努力を

積み重ねた職員の方々の、名称変更に伴うさまざまな手続きを担った館長のお話は大変興味深く、貴重なお話と痛感しました。

多様な性を包摂した新しい拠点施設「すみだ共生社会推進センター」の「協力委員」として私たちも更に効果的な啓発を行う記事を探し、区民の情報誌「すみなか」の編集に携わっていきたいと思います。

(高林)

すみなか編集委員会「特集」P4～P7、「こんにちは すみださん」P12担当
浅井・木ノ内・高林・横山(五十音順)

染色家

こまた かずこ

古俣 和子さん

独自の世界観で

色を染める



染色家として自身の作品を制作している他、日本最大級の公募展である国展で、国画会工芸部会員として応募作品の審査もされている古俣和子さんにお話をうかがいました。

大学では、高校生の頃から描いていた油絵の他、彫刻などの造形芸術関係のものを一通り学びました。卒業後、編集関係の仕事に就きましたが、絵はずっと描き続けていました。

油絵だけで食べていくのは難しいと感じていた折、知り合いの先生に染色家の方を紹介していただき、26歳で弟子入りして、染色を始めることになりました。国展に初入選したのが1984年です。その後、2001年頃に国展の図録の作成を担当するようになった。

り、2011年に国画会会員となりました。

作品制作に関しては、赤という色に思い入れがあります。紺や緑も使いますが、朱に近い赤を使った作品が圧倒的に多く、周りの人からは「古俣レッド」と言われることもあります。

染色は自宅で行っています。長さ3メートルくらい作品でしたら部屋を工夫してできます。床にマットを敷いて、キャンバスに絵を描くように染めています。普通、染物は型紙を使って染めますが、私は一切使わず、フリーハンドで筒書きという手法で制作しています。そのため、私の作るタペストリーは二つはできない一点物となります。作品は、年に3点くらいは作ります。テーマは何ケ

月か考えますが、そのとき読んでいる本とか、生活の在り方が反映されていると思います。

墨田区との関わりとしては、1993年頃に立川児童館の非常勤職員となりました。図工の先生の資格を持っているのと、ボランティア活動として読み聞かせをしていたことから、児童館でも工作やお話といった業務に週3日携わりました。

1997年からは図工専門の非常勤職員として、日替わりで区内3館の児童館に勤務して、2015年に退職しました。

染色を始めて20年ほど経った2001年に、それまでに制作した全ての作品を展示する個展をすみだリバーサイドホールギャラリーで開催しました。今後の希望として、もう一回くらしいこうした大きな会場での展覧会を開催したいと思っています。

これまで作り上げた数々の作品が展示される個展で、多くの人が古俣さんの世界に触れられる機会が一日でも早く訪れればと思います。

(横山)



▲古俣さんの作品
「明日、また明日、
そしてまた明日が…」

